

松江市消防団充実強化計画



令和4年4月

松江市

目 次

1章 基本的な事項

1 計画策定の経緯と目的	P3
2 計画の位置づけ	P3
3 計画の期間	P3
4 計画の推進体制	P4

2章 松江市消防団の現状と課題

1 松江市消防団の現状	P6
2 将来人口推計	P8
3 各アンケート調査結果	P11
4 方面団からの意見集約結果	P17
5 松江市消防団が抱える課題	P19

3章 消防団の充実強化に向けた取り組み

1 消防団組織の再編	P21
2 消防機庫や装備の機能強化	P23
3 団員の確保	P24
4 平時の消防団各活動（行事・訓練）	P25
5 処遇の改善	P26
6 将来に向けた方向性	P27

巻末資料

1 松江市消防団について	資- 1
2 各地区人口推移状況	資- 8
3 市民、消防団員等アンケート結果	資-21
4 方面団意見集約結果について	資-80

1章 基本的な事項

1章 基本的な事項

1 計画策定の経緯と目的

消防団は、市町村の非常備の消防機関であり、その構成員である消防団員は、他に本業を持ちながら、権限と責任を有する非常勤特別職の地方公務員として、「自らの地域は自らで守る」という精神に基づき、消防活動を行っています。

近年、各地で災害が多発しており、火災のみならず消防団の役割は大きくなっています。しかし、全国的に消防団員数の減少が危機的な状況であることなどから、消防庁において、令和2年12月に「消防団員の処遇等に関する検討会」が発足し、令和3年8月に消防団の処遇改善に向けた報告書が取りまとめられたところです。

松江市消防団においても、地域の人口減少等によりすでに団員確保に苦慮する地域があるなど、団員数の減少や平均年齢の上昇などの問題を抱えています。さらに、松江市全体の人口はすでに減少傾向であり、今後更に進んでいくことが想定される中、団員数が劇的に増加する要素は乏しい状況にあります。

計画策定にあたり実施したアンケートでは、団員間の不公平感や活動に対する負担を訴える声があります。これらを払拭するため、団員の処遇を透明性の高いものに改善することや団員の負担軽減につながる仕組み等、時代に即した環境の改善を行わなければ、消防団の機能維持が困難となる可能性があります。

そのため、今後も地域に求められる消防団活動を継続するため、現状のままではなく、大胆な改革が必要となります。

本計画は、消防団が人口減少などの社会情勢の変化に対し、地域防災の要としてこれからも活動できる組織体制づくりを主眼とし、消防団の充実強化を図ることを目的に策定します。

2 計画の位置づけ

本計画は、「松江市総合計画」や「松江市国土強靱化地域計画」と整合を図るとともに、松江市消防団の充実強化を図るための計画として位置付けます。

3 計画の期間

本計画は、令和4年度を初年度とし、10年後の令和14年度頃までを目安として、社会情勢等の状況に応じて柔軟に対応をしていくものとします。

4 計画の推進体制

計画の推進の主体は消防団であり、市は関係者との調整等、環境整備が役割となります。また、再編には地域の協力も不可欠であるため、地域と消防団そして行政が協調し、より良い消防団組織となるよう推進していきます。

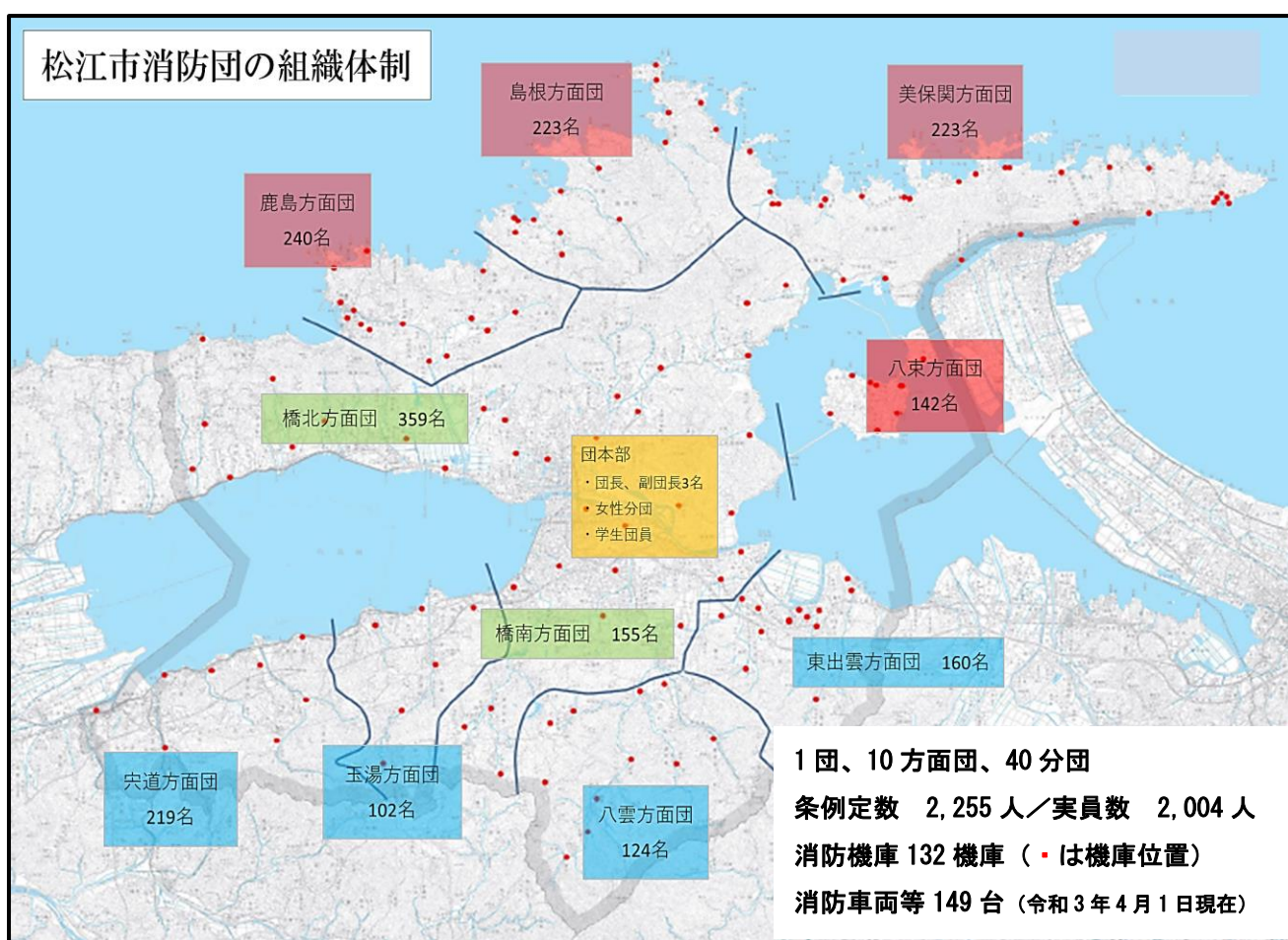
2章 松江市消防団の現状と課題

2章 松江市消防団の現状と課題

1 松江市消防団の現状(巻末資料「1 松江市消防団について」資-1ページ参照)

平成23年8月の市町合併により現在の松江市消防団が誕生しました。組織体制については、旧松江市及び旧八束郡の組織体制を引き継ぎ、1団、10方面団、40分団、122班、条例定数2,255人の組織です。

図1 松江市消防団の組織体制(令和3年4月1日現在)

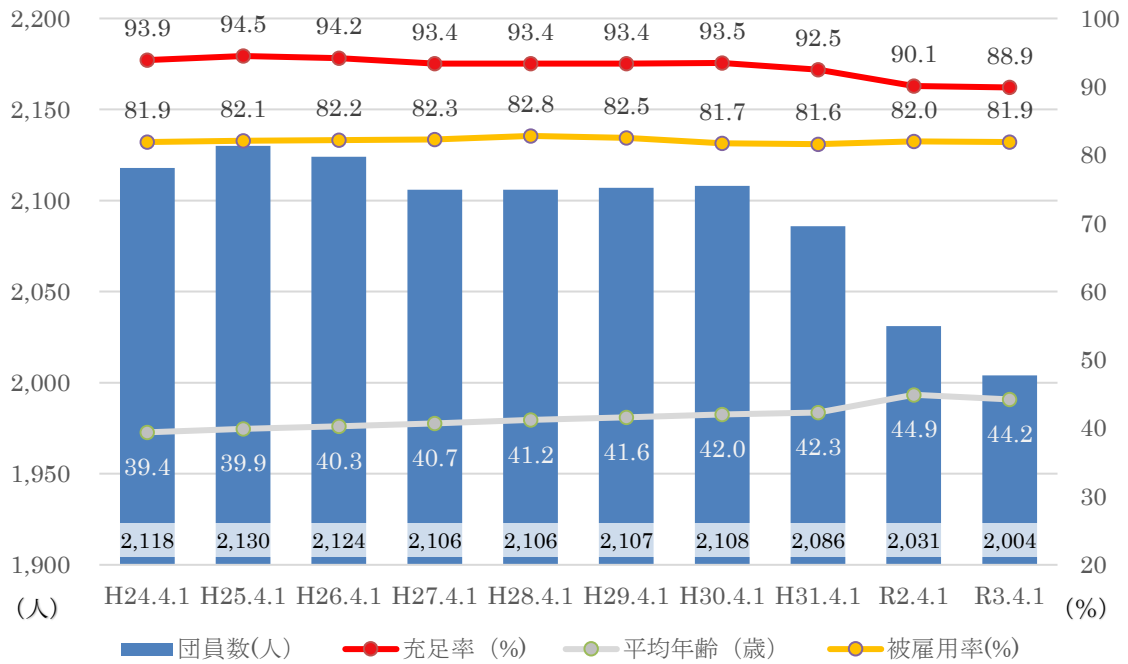


松江市消防団の団員数は、最も多かった平成25年4月の2,130名（充足率94.5%）から減少を続け、令和3年4月現在で2,004名（充足率88.9%）となっています。

また、平均年齢は、平成24年の39.4歳から令和3年4月現在で44.2歳と、約5歳高くなっています。（グラフ1参照）

そして、被雇用率の割合も80%台を超えており、被用者の割合が高い水準で推移しています。

グラフ1 松江市消防団の団員状況



2 将来人口推計(巻末資料「2 各地区人口推移状況」資-9ページ参照)

(1)はじめに

松江市消防団充実強化計画は、将来の組織体系や新規団員の確保等について検討を行うため、松江市の人口動態を把握することが必要です。そのため、コーホート変化率法(※1)を用いて、人口推計を行いました。

※1 コーホート変化率法とは、あるコーホート(同時出生集団)の一定期間における人口の変化率に着目し、その変化率が対象地域の年齢別人口の変化の特徴であり、将来にわたって維持されるものと仮定して、将来の人口を算出する方法です。

【推計使用データ:島根県 地域振興部 中山間地域・離島振興課「しまねの郷づくり 応援サイト」】

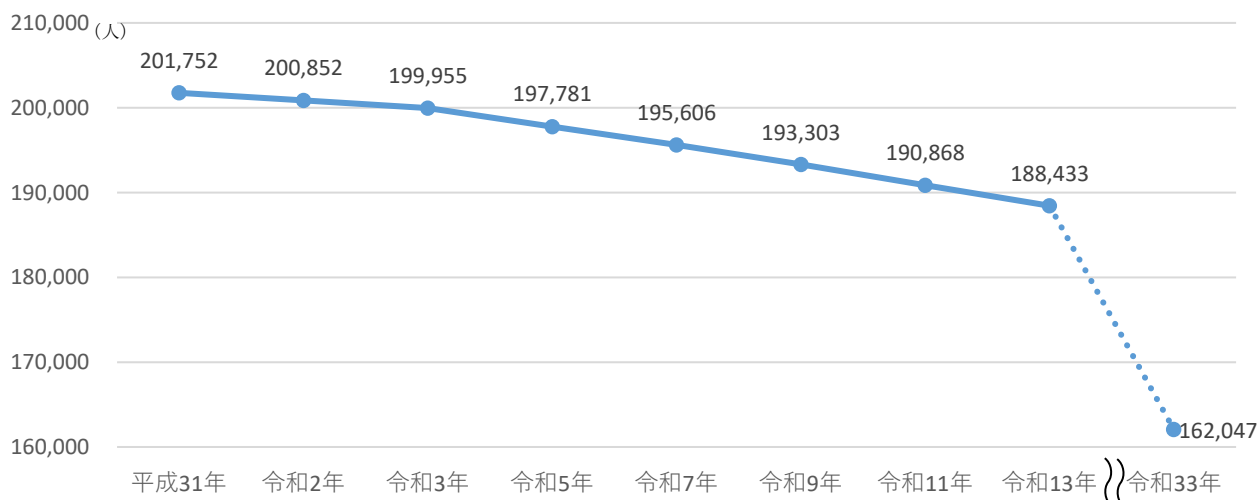
(2)松江市の人口推移状況

松江市全体では、長期的に緩やかな人口減少が続き、10年後の令和13年には18万8千人台になることが予想されます。そして、30年後の令和33年には、16万2千人台になることが予想されます。(グラフ2参照)

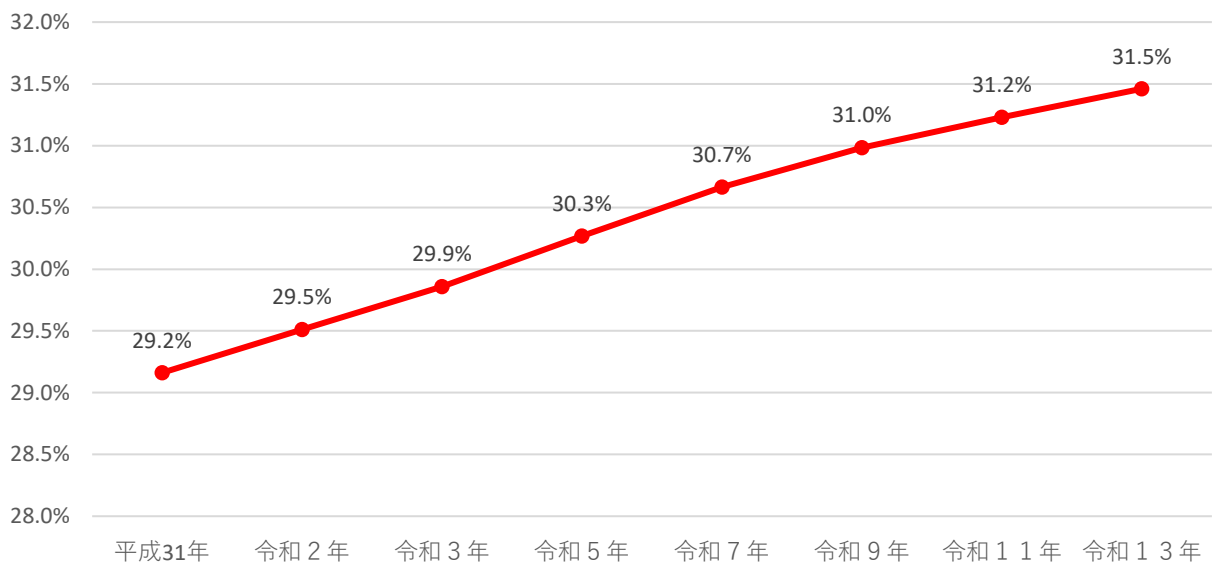
また、年齢階層別で見ると、65歳以上の高齢化率は上昇(グラフ3参照)が予測されるのに反し、生産年齢人口(15~64歳)割合は、減少(グラフ4参照)することが予測されます。特に、高齢化率については、令和3年では29.9%であったものが、令和13年には31.5%まで上昇すると予測されます。

これは、主として消防団員として活動いただく年齢層が減少し、消防団員一人一人に掛かる負担が大きくなることが予想されます。

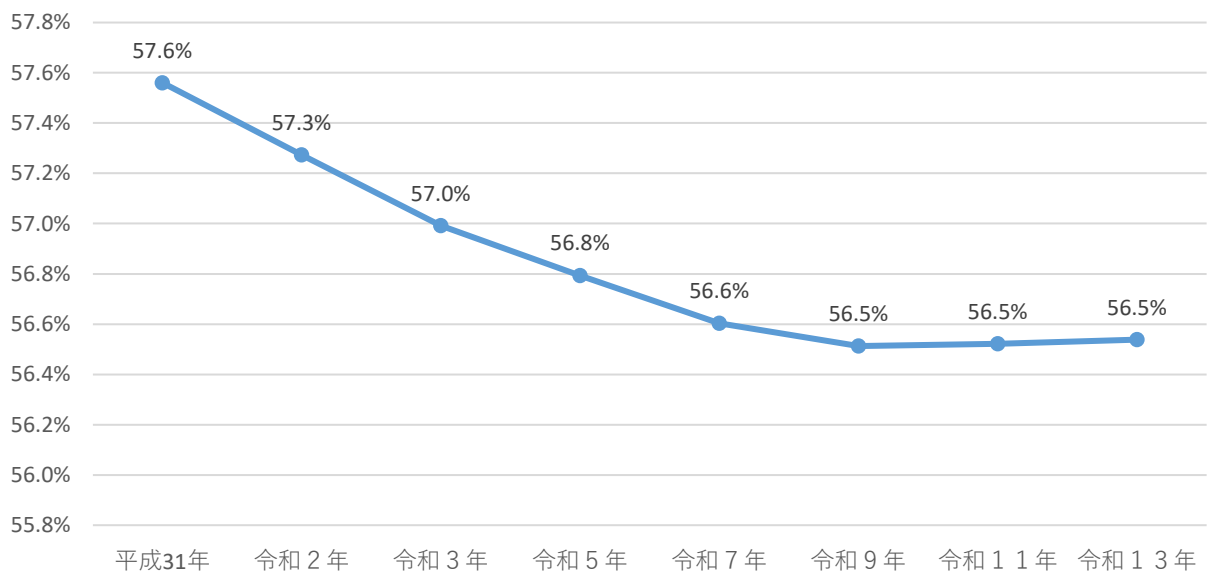
グラフ2 松江市の総人口の推移



グラフ3 松江市の高齢化率の推移



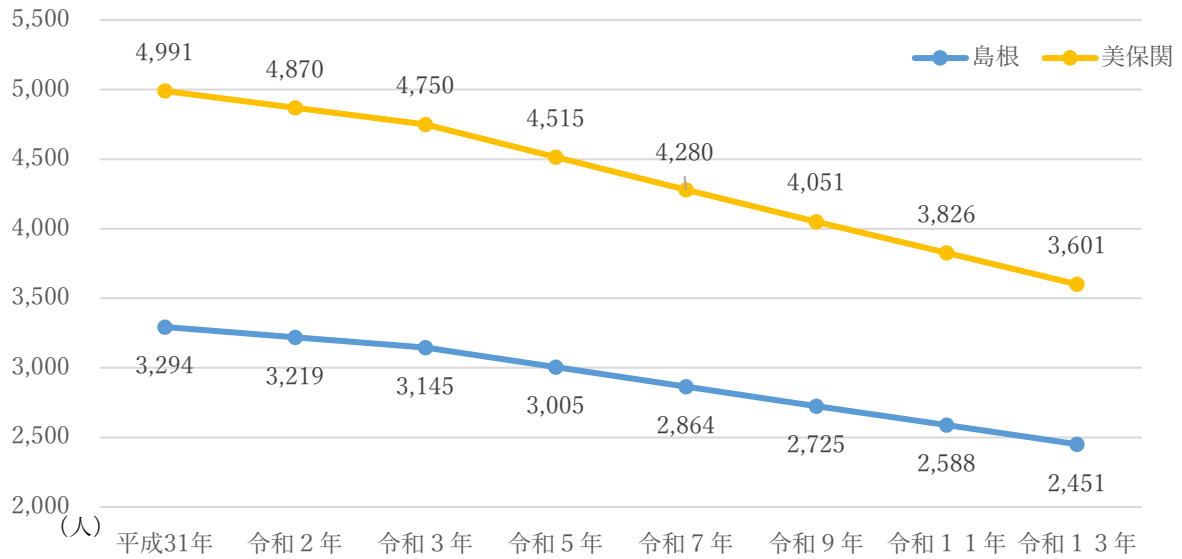
グラフ4 松江市の生産年齢人口(15~64歳)割合の推移



(3)各地区の人口推移

本市の各地域について、旧松江市、旧八束郡でそれぞれの人口推移を見ると、玉湯町、東出雲町は人口の増加が予測されますが、他の全ての地区で、人口減少が予測されています。特に、島根町、美保関町で人口減少が大きくなることが予測されます。(グラフ5参照)

グラフ5 島根町、美保関町の人口推移



以上のことから、一部の地区では人口増加が予想されるも、多くの地区、そして、松江市全体では、人口減少及び生産年齢人口（15～64歳）の減少がみられることから、今後消防団員を確保することがさらに困難となることが予想されます。

3 各アンケート調査結果(巻末資料「3 市民、消防団員等アンケート結果」資-22ページ参照)

本計画の策定に合わせて、市民や消防団員の声をこの計画に反映させるため消防団に関するアンケート調査を行いました。市民、消防団員並びに方面団及び女性分団を対象にそれぞれ実施しました。

1.調査方法

(1)市民

- ・調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の松江市民 2,000人
- ・調査方法：郵送による配布・回収及びインターネットを活用
- ・調査期間：令和3年9月2日から13日まで
- ・有効回答数：777件（回答率38.85%）

(2)消防団員

- ・調査対象：松江市消防団に所属するすべての団員 2,009人（令和3年9月1日時点）
- ・調査方法：郵送による配布・回収及びインターネットを活用
- ・調査期間：令和3年9月2日から13日まで
- ・有効回答数：1,118件（回答率55.65%）

(3)方面団・女性分団

- ・調査対象：松江市消防団に所属する10方面団及び女性分団
- ・調査方法：郵送による配布・回収
- ・調査期間：令和3年9月2日から13日まで
- ・有効回答数：11件（回答率100%）

2.アンケート分析結果

市民アンケート及び消防団員アンケートでは様々なご意見をいただきました。その結果を分析し、得た注目すべきポイントと解決に向けた意見の分析結果についてまとめた内容を次ページから載せております。また、市民からの期待や団員のメリットに関する意見も載せています。

このアンケート分析結果は、市民や消防団員の声として充実強化に向けた取り組みの参考とします。

(1) 市民アンケート分析結果

【Point ①】 消防团组织は必要と認識されているが、地元の組織や具体的な活動について、若い世代や市街地住民がよくわかっていない
<ul style="list-style-type: none">● 8割以上が消防団の存在を知っており、必要だと思っている。● 地元の消防団を具体的に知っているのは半数。若年齢や市街地（橋北、橋南、東出雲）で知らない割合が高い。● 消防団の活動に対して、近年災害のあった島根、玉湯で、必要不可欠と考えている割合が高く、若年齢や市街地（橋北、橋南、東出雲）で必要かどうかわからない割合が高い。
<解決に向けた分析結果> 消防団の活動内容等の情報提供、PRを強化する
<ul style="list-style-type: none">● 活動内容を SNS で発信。年配には広報誌等で。〈自由記述から〉● 地元消防団の役割は何か、小学生でもわかるように宣伝。〈自由記述から〉

【Point ②】 半数の人が消防団に興味がなく、入団を考える人が1割未満
<ul style="list-style-type: none">● 消防団に多少興味がある人が3割、あまり興味がない人が5割。若い人ほど興味がない。● 消防団への入団を考える人は7%、考えない人が69%
<解決に向けた分析結果> 地域と連携し、防災に関する講習会・訓練等を実施する
<ul style="list-style-type: none">● 防火防災等について町内会及び町内高齢者グループに出前講習を開催する。〈自由記述から〉● 20年前は消火器を使った訓練、消火栓を使った水出し訓練をやっていた〈自由記述から〉

<その他>市民は消防団を必要と感じ、火災対応を始め、地震・風水害の対応を期待している
<ul style="list-style-type: none">● 約7割の方が、貢献度が高いと認識し、約8割が消防団を必要だと思っている。● 消火活動を始め、地震、風水害での防災活動や日常の巡回等、多岐にわたり期待を寄せている。

(2) 消防団員アンケート分析結果

【Point ①】

新規団員の確保が団員に委ねられている

- 団員・元団員による勧誘が7割。地域の慣習が2割

<解決に向けた分析結果>

地域(自治会、公民館等)や職場(地元事業者)との連携を強化する

- 勧誘が行いやすくなる対策として、「自治会、公民館との連携」が多い。所属別では、橋北、橋南、玉湯、宍道、東出雲で割合が高い。
- 勧誘が行いやすくなる対策として、橋南、玉湯、鹿島、東出雲で「地元事業者への働きかけ」の割合が高い。

【Point ②】

平日昼間の出動ができない人が半数以上

- 「できる・ほぼできる」43%、「ほぼできない・できない」56%。島根、八雲、玉湯でできる人が多く、橋南、鹿島、美保関、八束でできない人が多い。
- 鹿島は会社員の割合が高く、出動が困難な可能性がある。
- 災害対応に対する職場の理解は島根、宍道、美保関で高く、玉湯、八束で低い。
- 「団員のサラリーマン化による昼間消防力の低下」を組織体制の見直しが必要な理由としているのが、橋北、八束。

<解決に向けた分析結果①>

職場に活動を周知し、メリットを検討する

- 勧誘が行いやすくなる対策として、橋南、玉湯、鹿島、東出雲で「地元事業者への働きかけ」の割合が高い。
- 企業・職場に活動や消防団への理解をしてほしい。協力事業所制度を徹底してほしい。
<自由記述から>

<解決に向けた分析結果②>

地域ごとに班(分団)との統合・公民館に合わせた統合を検討

- 消防団員の課題解決に「分団(班)の統合等枠組みの見直し」の選択が多い。
- 「分団(班)の統合等枠組みの見直し」が多い。橋北・橋南では、「近隣の班(分団)との統合」と「公民館に合わせた統合」が共に約4割、その他地域では、約7割が「近隣の班(分団)との統合」を理想と考えている。

【Point ③】

団員の確保(団員の減少、高齢化)、活動参加者が少ない

- 課題は「分団(班)の人数減少」「高齢化」「活動時に集まらない」の順に割合が高い。
- 団員確保：「今は確保しているが今後は難しい」、「現状もできていない」が共に4割。

<解決に向けた分析結果①>

報酬・待遇の周知・改善

- 消防団の現在の課題解決に「報酬・待遇の改善」が最も多かった。
- 30歳代以下の半数が報酬額・費用弁償金額を知らず、6割以上が改善を必要と考えている。
- 勧誘が行いやすくなる対策として、報酬等のメリット周知が最も多い。

<解決に向けた分析結果②>

地域ごとに班(分団)との統合・公民館に合わせた統合を検討《前掲》

- 消防団員の課題解決に「分団(班)の統合等枠組みの見直し」の選択が多い。
- 橋北・橋南では、「近隣の班(分団)との統合」と「公民館に合わせた統合」が共に約4割、その他地域では、約7割が「近隣の班(分団)との統合」を理想と思っている。

<解決に向けた分析結果③>

自治会、公民館との連携

- 消防団員の課題解決に「行政からの地元や地域の働きかけ」の選択が多い。
- 勧誘が行いやすくなる対策として、自治会、公民館との連携が多い。

<解決に向けた分析結果④>

活動回数等の見直し

- 消防団員の課題解決に「訓練・行事等の活動回数の見直し」の選択が多い。
- 勧誘が行いやすくなる対策として、自治会、公民館との連携が多い。

【Point ④】

操法大会、出初式が負担となっている

- 負担に感じている行事・活動は「操法訓練・大会」が8割以上、「出初式」が5割であり、八雲で「操法訓練・大会」が93%。

<解決に向けた分析結果>

操法大会・出初式の改革

- 改革の必要性として、「操法大会の改革」が75%、「出初式等の行事の改革」が52%。
- 大会の訓練が厳しすぎるから誰も入団したいと思わない。〈自由記述から〉

<その他> 団員やその家族も、「地域貢献」等、消防団活動に肯定的な意見が多い。

- 入団後の感想として、「多くの人と知り合えた」、「防災等に関する知識技術が身についた」、「人から喜ばれやりがいを感じる」など肯定的な意見が多い。
- 団員と同居する家族からの回答では、災害時には心配であるが、地域とのつながりや貢献度が上位となっている。

(3) 所属別の現状と課題

所属	アンケート結果からみる現状と課題
橋北	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元消防団を知らず、必要かどうかわからない人が多い。 ● 入団後、防災知識・技術が身についたと感じる人が多い。 ● 昼間消防力の低下のため、枠組み（班・分団または公民館ごと）を見直す必要があると考える人が多い。 ● 自治会、公民館との連携による団員の勧誘を望む人が多い。
橋南	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元消防団を知らず、必要かどうかわからない人が多い。 ● 平日昼間の出勤が困難な人が多い。 ● 団員数が少なく、枠組み（班・分団または公民館ごと）を見直す必要があると考える人が多い。 ● 行政から地域への働きかけが必要で、自治会、公民館との連携、及び地元事業者への働きかけによる団員の勧誘を望む人が多い。
鹿島	<ul style="list-style-type: none"> ● 会社員の割合が高く、平日昼間の出勤が困難な人が多い。 ● 人数の減少、高齢化が課題であり、解決のために枠組みを見直す必要があると考える人が多い。 ● 報酬額等を知らず、改善が必要と思う人が多い。 ● 報酬等のメリットの周知及び地元事業者への働きかけによる団員勧誘を望む人が多い。
島根	<ul style="list-style-type: none"> ● 消防団の活動を必要不可欠と考えている人が多い。 ● 入団後、人から喜ばれやりがいを感じている人が多く、地域に対する貢献が大きいと考える家族が多い。 ● 報酬・手当が少なく感じている人が多く、解決に向けて「報酬、待遇改善」を挙げる人が多い。 ● 訓練・行事に対する家族の理解、災害対応に対する職場の理解が高い。 ● 過疎化により枠組み（班、分団）を見直す必要があると考える人が多い。
美保関	<ul style="list-style-type: none"> ● 消防団の活動を必要不可欠と考えている人が多い。 ● 入団後防災知識・技術が身についた。人から喜ばれやりがいを感じている人が多い。 ● 訓練・行事に対する家族の理解、災害対応に対する職場の理解は高いが、平日昼間の出勤が困難な人が多い。 ● 過疎化により枠組みを見直す必要があると考える人が多い。

所 属	アンケート結果からみる現状と課題
八 雲	<ul style="list-style-type: none"> ● 報酬が少ないと感じ、解決には報酬、待遇改善を挙げる人が多く、報酬等メリットの周知による団員の勧誘を望む人が多い。 ● 平日昼間の出動が可能な人が多い。 ● 操法訓練・大会を負担に感じ、改革する必要があると考える人が特に多い。 ● 資機材・個人貸与品の改善を必要と考える人が多い。
玉 湯	<ul style="list-style-type: none"> ● 消防団の活動を必要不可欠と考えている人が多い。 ● 入団後、多くの人と知り合えてよかった、本業に支障があると感じている人が多い。 ● 家族に負担をかけていると感じている人が多い、時間を取られて負担に感じている家族も多い。 ● 職場の理解が低いが、平日昼間の出動が可能な人が多い。 ● 人数の減少及び活動時に集まらないことが課題であり、団員の確保が現状もできておらず、団員数の減少により枠組み（分団、班）を見直す必要があると考える人が多い。 ● 資機材・個人貸与品の改善を必要と考える人が多い。 ● 課題解決には行政から地域への働きかけが必要と考え、自治会、公民館との連携、及び地元事業者への働きかけによる団員の勧誘を望む人が多い。
宍 道	<ul style="list-style-type: none"> ● 消防団の活動を必要不可欠と考えている人が多い。 ● 入団後、家族に負担をかけていると感じている人が多い、時間を取られて負担に感じている家族も多い。 ● 災害対応に対する職場の理解が高く、訓練・行事に対する家族の理解が低い。 ● 課題解決には、行政から地域への働きかけが必要と考える人が多い。
八 束	<ul style="list-style-type: none"> ● 職場の理解が低く、平日昼間の出動が困難な人が多い。 ● 団員数の減少、昼間消防力の低下及び過疎化のため、枠組み（班・分団）を見直す必要があると考える人が多い。 ● 報酬等のメリットの周知による団員の勧誘を望む人が多い。
東出雲	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元消防団を知らず、必要かどうかわからない人が多い。 ● 災害対応に対する職場の理解が低い。 ● 課題解決には行政から地域への働きかけが必要と考え、自治会、公民館との連携、及び地元事業者への働きかけによる団員の勧誘を望む人が多い。

4 方面団からの意見集約結果

(巻末資料「4 方面団意見集約結果について」資-81ページ参照)

松江市消防団10方面団から、各項目について意見募集を行いました。統合や処遇等について意見は異なる部分がありますが、いただいた意見を集約した結果は以下のとおりです。

(1)方面団のあり方、組織体系について

【まとめ】:団員の確保が困難となり、将来的には班(分団)の統合が必要。

【意見】

- ・勧誘活動が困難で、新入団員確保に苦労している。
- ・将来的に班(分団)の統廃合等が必要になってくると思う。
- ・統合について理解はあるが、方面団体制は維持すべき。

(2)行事について(操法大会・出初式等)

【まとめ】:操法や出初式は必要だが、家族や仕事への負担感が大きく、時間、方法の見直しが必要。しかし、労苦を共にすることで、自身や士気の向上につながる。

【意見】

- ・ホースやポンプ等の資機材の習熟のため操法大会は必要である。
- ・団員数の減、仕事の多様化等で職場、家庭への負担が大きい。
- ・操法のための訓練ではなく、実際の現場で全員が対応出来る様なポンプ操作、ホースを繋ぐ訓練が必要ではないか。
- ・伝統ある出初式は必要だと思うが、日程や内容の改革を望む。
- ・研修の内容は現状に即したものとし、回数を検討してほしい。

(3)報酬・待遇について

【まとめ】:報酬(メリット)の増を望む。個人支給等の支払方法は要検討。

【意見】

- ・年報酬、出動手当の増額を希望する。
- ・団員の士気の向上という点で、報酬の増額はさほど関係ないように感じる。
- ・「個人支給がよいと考える。」、「個人支給は難しい。」、「今後検討していく課題。」
- ・消防団員確保のために、メリットをなるべく増やす事を望む。(市税の減額等)
- ・勤め先の負担軽減等ができるメリットがある事で消防団活動に出やすくなる。

(4)車両・機庫及び装備について

【まとめ】:地域特性や求められる災害に応じた消防施設や装備の充実、配備を

【意見】

- ・軽車両は良いがパワーがない。
- ・詰め所機能が必要及び個人装備品の拡充を。
- ・地域ごとに異なる管内の地理状況など、それぞれに応じた装備が必要。

(5)その他(消防団活動に関するご意見)について

その他の意見としては、「活動に関すること。」、「広報、勧誘に関すること。」及び「家族や会社に関すること。」について意見をいただきました。以下、抜粋です。

- ・異常気象で広域的な災害が予想されるので、方面団を超えた広域訓練が必要。
- ・コロナ禍の中、訓練等がやりにくく、方面団に合った活動をやっていく方向を検討。
- ・火災、自然災害、高齢化及び団員の意識を高める為に、動画等を多く取り入れたらどうか。
- ・消防団活動に対する告知、広報活動、一般市民や会社法人向け、広く多くの人達に消防団活動の重要性をアピールする取り組みをお願いします。更なる具体的な広報を。
- ・学校等への出前授業の実施、また女性団員の募集にも注力してほしい。
- ・消防団員が所属する会社に対して、何かしらのメリットがあると会社側の理解がより得られるのではないかと思います。もっと各企業に（雇用者）協力をお願いしてほしい。
- ・災害等で職場を休んだ際には、消防本部から職場へお礼状や活動報告を送付してほしい。

5 松江市消防団が抱える課題

「2 将来人口推計」や「3 各アンケート調査結果」及び「4 消防団からの意見集約結果」から松江市消防団が抱える課題を抽出すると、以下の2つの大きな課題が見えてきます。

課題1 団員の確保ができない

令和3年時点でも団員の確保に苦慮し、団員数の減少、平均年齢の上昇が見られます。

実際に消防団員アンケートでも、課題として、「団員の減少」、「高齢化」及び「活動時に集まらない」などが挙げられています。

団員の減少や高齢化により、操法大会訓練及び出初式を始めとする行事など、団員一人一人に掛かる負担が増えていることが予想されます。

また、「2 将来人口推計」では、松江市の総人口の減少や生産年齢人口（15～64歳）の減少が予測されることや、市民アンケートでは、消防団は必要という意見や地域の防災に協力していきたいという意見は多くあるものの、実際に消防団員に入団するかの問いには、「入団を考えない」という回答が約7割を占めています。

このことから、今後も団員数の劇的な増加は考えにくく、どのように団員を確保していくかが課題となります。

課題2 平日昼間の防災力の確保

松江市消防団では、被用者が占める割合が80%以上で推移しています。また、消防団員アンケートの中でも、平日昼間に災害出動できるかの問いに対し、約半数の方が、「（ほぼ）出動できない。」と回答をしています。そして、消防団員が考える課題の中にも、「活動時に団員が集まらない」というものも上位に挙がっており、平日昼間の対応が課題となっています。

この2つの課題は、それぞれが複合的に絡み合う課題であり、同時に対応していく必要があります。

そこで、2つの課題を具体的に解決するための取り組みを第3章に示します。

3 章 消防団の充実強化に向けた取り組み

3章 消防団の充実強化に向けた取り組み

市民アンケート結果では、「消防団の必要性」や「消防団に期待すること」を尋ねたところ、78%の方が必要であると回答し、「火災の消防活動」のみならず、「地震、風水害の防災活動」及び「避難誘導」が多い結果となっています。このことから、市民が、消防団に寄せる期待は大きいことがわかります。

そして、令和3年4月に発生した島根町加賀の大規模火災や建物が密集する地域で危惧される延焼火災、山林で発生する火災など被害が広範囲に広がる災害では、消防団の要員動員力が欠かせません。

そのため、現在の消防団員、未来の消防団員が将来にわたり活動がしやすく、これからも市民の期待に応じていくため、消防団が抱える課題の解決に向けて、以下の5つの取り組みにより、消防団の充実強化を目指します。



1 消防団組織の再編

●現状と課題

松江市消防団が抱える2つの課題として、「団員の確保ができない」、「平日昼間の防災力の確保」がありますが、将来の人口推移では、人口の減少が予測されることから、今後さらに団員の確保が困難となることが予測されます。

そして、令和3年4月に発生した島根町加賀の大規模火災や同年7月に発生した水害では、方面団、分団及び班を超えた広域的な連携活動を行いました。近年の気象条件等からも今後も同様の災害が発生することは否定できないため、早急に消防団の災害対応力の強化を図る必要があります。

方向性

- 団員の確保、平日昼間の防災力確保及び大規模災害時の広域的な連携活動のため、近隣の分団(班)の統合を基本として、団員の確保が困難な地域を優先的に、組織再編を進めていきます。

2 班統合による消防機庫や装備の機能強化

●現状と課題

方面団からの意見集約結果では、消防機庫や車両及び装備（以下、装備等という。）について、地域特性や求められる災害に応じた装備等の充実強化を求める意見が多くありました。

しかし、松江市消防団では、多くの消防機庫や消防車両を抱えており、多年が経過した装備等多くあるため、更新に時間がかかるなどの課題があります。

方向性

- 消防団組織の再編を進めることにより、保有する装備等の選択肢を増やし、装備等の充実を図ります。

⇒例として、3～4つの分団(班)が統合することにより、所属する団員数の増加が考えられます。そのため、拠点となる消防機庫には、団員が待機する場所を備えたり、団員や資器材を災害現場に搬送する手段として、消防車両と別の搬送車両を備えることを検討していきます。

3 団員の確保

●現状と課題

団員の確保ができないという課題に対し、アンケート結果でも、SNSを使った広報や、若年層や高齢者層など年代に応じた広報を求める声がありました。また、消防団の悪いイメージを払拭しなければ団員が確保できない等の意見もありました。

そして、消防団員の多くがサラリーマンであることから、消防団活動にとって事業者の理解や協力は不可欠です。現在、事業者向けの制度としては、「消防団協力事業所表示制度」を導入していますが、より多くの事業者の理解と協力を得る必要があります。

また、消防団員アンケートの結果では、平日昼間の出動について、約半数の団員から「出動（ほぼ）できない。」と回答があるなど、平日昼間の防災力について課題があります。

方向性

●消防団の認知度向上や団員確保に向けた広報の実施

⇒団員の出前事業など幼少期から消防団を身近に感じられるような取り組みを行います。

⇒消防団を正しく理解してもらうため、消防団に入団することのメリットや実態。そして、消防団が抱える課題などを広報していきます。

●事業者の理解と協力

⇒消防団活動について、より多くの事業者の理解と協力を得るため、企業のメリットとなるような施策を検討していきます。

●機能別消防団員の役割や活動の検討

⇒機能別消防団員の役割や活動について検討を深め、実情に応じて見直しを図ります。

（初期の対応に特化した機能別消防団員等）

4 平時の消防団活動(行事・訓練)

●現状と課題

特に、消防操法大会と大会に向けた訓練について、各方面団や消防団員からは、訓練の必要性は認識しているものの、多くの消防団員がサラリーマンであるという実情から、大会に向けての選手集めや大会までの訓練が負担に感じると意見をいただきました。

そして、出初式についても日程や内容について改革を望む声が多いことが分かりました。

また、火災や水害対応を始め、実災害時に必要となる知識や技術を得られるような訓練を望む声が多くありました。

これらのことを踏まえ、「団員が確保ができない」という課題解決に向け、取り組んでいく必要があります。

方向性

●消防操法大会に向けた訓練の検討

⇒消防操法大会に向けた訓練について、現在、国でも消防操法大会のあり方が検討されていることや、島根県においても県大会の方法について検討されています。その検討結果を踏まえ、団員が参加しやすい方法等を検討していきます。

●出初式の検討

⇒実施方法について、参加しやすい形となるよう消防本部と連携し取り組んでいきます。

●実災害を想定した訓練等

⇒水火災時や大規模災害時の活動に必要な知識と技術の習得ができる機会を消防署と連携し、取り組んでいきます。

5 処遇の改善

●現状と課題

「消防団員の報酬等の基準の策定等について」（令和3年4月13日消防地第171号消防庁長官通知）により、非常勤消防団員の報酬等の基準が示されました。その中では、団員階級の者の年額報酬は、年額36,500円を標準とすること。出動報酬の額は、災害対応時、1日当たり8,000円を標準とすること。さらに、消防団員個人に対し、市町村から直接支給する。とされています。

各アンケート結果や方面団からの意見でも年報酬と出動報酬（費用弁償）について、増額を望む多くの声が寄せられました。また、活動への参加状況の多少により団員間で不公平感が生まれていることもわかりました。

支給方法については、現在、団幹部等一部の団員を除き、多くは分団長又は班長が指定する口座へ振込を行っています。報酬を消防団員個人に支給することについて、方面団アンケートでは、個人支給とする場合、班等の運営費を求める意見や活動した団員にはしっかりと支給してほしい等の意見がありました。

方向性

●処遇の改善

⇒年報酬、出動報酬(費用弁償)を国の基準に増額を目指し、団員の確保と家族の理解を深めます。

⇒消防団の処遇に透明性を持たせるため、個人支給の導入を進めます。

●休団制度等

⇒子育てや介護、会社での長期出張など、継続的に消防団活動が困難な団員について、団員間の不公平感の払拭と団員の生活に配慮しながら、消防団活動ができるよう「休団制度」の導入を目指します。

6 将来に向けた方向性

松江市消防団を取り巻く現状は、地域ごとに異なるものの、「分団(班)等の人数の減少」、「高齢化」、「活動時に団員が集まらない」など、主に団員の確保が課題となっています。

処遇の改善などにより、消防団員の活動内容や報酬の支払い方法等が明確となることで、透明性が高まり健全化が進むと、消防団員について地域や市民の理解がさらに進むことも考えられますが、松江市全体の人口はすでに減少傾向にあり、人口推計からも今後も団員数が劇的に増えることは困難な状況です。

そのため、消防団組織について、近隣の班等の統合を第一段階として、条例定数にこだわることなく、今後も地域のために活動できる組織体制を目指し、社会情勢に応じた柔軟な発想による見直しを続けていくことがこれからも必須となります。

卷末資料